氏　　名	里内勝己
学　位　の　種　類	博士（文学）
報　告　番　号	乙第３５１号
学位授与年月日	２０２０年3月３１日
学位授与の要件	学位規則(昭和２８年４月１日文部省令第９号) 第４条第２項該当
学位論文題目	『神殿の巻物』の文献学的研究
審　査　委　員	（主査）長谷川修一（立教大学大学院キリスト教学研究科教授） 廣石　望（立教大学大学院キリスト教学研究科教授） 月本昭男（立教大学名誉教授／上智大学神学部特任教授）

Ⅰ．論文の内容の要旨

（１）論文の構成

凡例
はじめに
第１章　『神殿の巻物』概観
第２章　『神殿の巻物』の内容区分とその特色
第３章　成立に関する論争
第４章　ラビ文献との相違
第５章　『神殿の巻物』とクムラン宗団
第６章　『神殿の巻物』と聖書の関係
結論
資料　　『神殿の巻物』全訳及び注

（２）論文の内容要旨

本論文は、２０世紀半ばにクムラン遺跡周辺で発見された『神殿の巻物』と呼ばれる文書のテキストを聖書その他のテキストと比較しつつ復元し、その思想的内容の研究から、文書とクムラン宗団との関わりを検討する研究である。

第１章では、『神殿の巻物』の物理的な特徴、最初に出版されたテキストとその後に出版された複数の校訂本、また関係する写本について論じる。

第２章では、『神殿の巻物』の校訂版とその現代語訳について紹介した後、その内容を先行研究に基づいて区分する。

第３章では、『神殿の巻物』の成立背景に関する４つの先行研究を要約し、その問題点について指摘する。

第４章では、『神殿の巻物』より後に成立したユダヤ教ラビ文献との内容的な相違点について論述する。

第５章では、『神殿の巻物』と他のクムラン宗団文書との思想的な相違点を炙り出し、『神殿の巻物』のクムラン宗団への帰属性について論じる。

第６章では、『神殿の巻物』と古代語訳聖書について、その内容の相違を明らかにする。

以上の分析を通し、結論では『神殿の巻物』がクムラン宗団に由来する文書であり、聖書の「律法」に匹敵する書物として宗団内で重要視されていたと論じる。巻末には、『神殿の巻物』の全訳および詳細な訳注が付されている。

Ⅱ．論文審査の結果の要旨

（１）論文の特徴

本論文は、日本ではこれまでほとんど学術的に研究されることのなかった『神殿の巻物』を、ギリシア語、ラテン語、アラム語、シリア語等の古代語訳を含む聖書テキストならびに後代のラビ文献テキスト等との詳細な比較考察を基に丁寧に復元し、その復元されたテキストを対象として『神殿の巻物』の思想的特徴を考察する点に最大の特徴を持つ。

『神殿の巻物』のもつ思想的特徴を考察するに当たり、思想の核となり得るテーマについて、ラビ文献、クムラン宗団文書、聖書に見られる思想と共通点・相違点をそれぞれ比較して分析していることがもう一つの特徴と言えよう。

本論文の巻末に付された『神殿の巻物』の全訳と訳注は、欧米でこれまでに出版された訳本・校訂本に見られる誤りをも修正するなど、最新の研究成果を反映したものである。

（２）論文の評価

本研究は、様々な古代語訳や後世の文献を参照しながらテキストそのものを独自に復元して邦訳し、これまで正確とは言いがたい、古い邦訳しかなかった『神殿の巻物』に詳細な訳注を付した点が評価できる。本研究により、これまで『神殿の巻物』にアクセスすることが難しかった人々にその内容が広く伝わることが期待される。特に訳注部分では、先行研究の誤植を指摘したり、独自の復元を試みたりするなど、その学問的価値は高く評価できる。

精緻に復元したテキストを基盤として『神殿の巻物』の成立時期、著者／編纂者の同定、クムラン宗団への帰属性について考察することにより、先行研究において決着を見ていなかったこれらの問題について、一定の説得力を持つ回答を提出することに成功している。とりわけ、聖都での生活、清浄規定、祭司制度、犠牲制度などに見られる厳格な掟は、『神殿の巻物』の著者／編纂者による聖性の徹底的な追及姿勢を反映しているという点は説得力に富む。

細部の詳細な分析に徹するあまり、『神殿の巻物』が全体としてどのような書物であり、なぜ書かれたのかという点については、十分な考察に至らなかった点もある。それらは今後の課題と言えよう。しかし全体として、本研究が『神殿の巻物』の研究および、紀元前後のユダヤ教研究に寄与することは疑う余地がない。